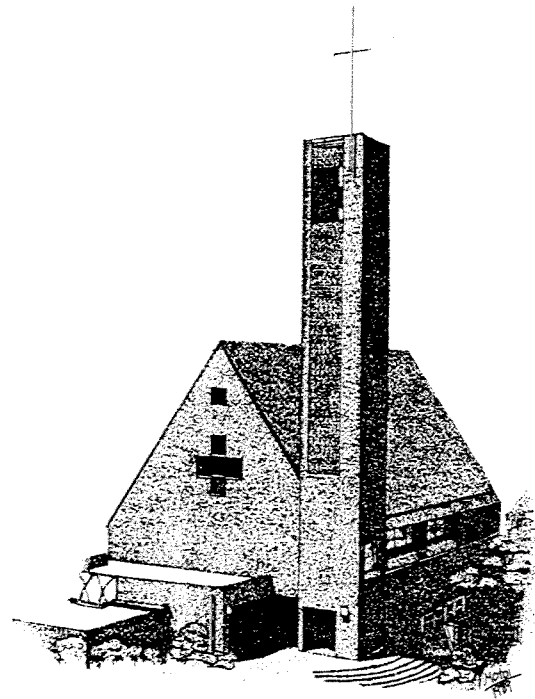


チャペル ブックレット No.6

—— 1992 春の宗教講演記録 ——

# 生きるよろこび

フリーアナウンサー  
村田佳寿子



名古屋学院大学 宗教部



村田 佳寿子さんの紹介

「神様は決して悪いようにはなさらぬ。たとえ目が見えなくなっても、それはあなたにとって一番良いことなのだから」。これは村田さんが失明の不安と向きあっていた高校3年のとき彼女を支えてくれた友人の言葉です。

病室のベッドで聴くラジオ。目で見ることのできない夕焼けを、心の中に描かせるアナウンサーの仕事の魅力を発見。「真っ暗闇の中で私は一生の仕事を見つけました」と村田さん。

幸い手術は成功し、短大で英語を、専修大学で心理学をさらに東京アナウンスアカデミー、NHKアクターズゼミ本科・声優科を経て、念願の放送界へ。文化放送専属アナウンサーとなり、「ふるさとはどこですか」でギャラクシー賞選奨を受賞。現在はテレビ朝日「モーニングショー」のリポーター、環境ジャーナリストの会員聖書のCD朗読など多方面に活躍中です。

1992年5月25日 宗教部主催の春の宗教講演会でお話いただきました。

## 生きるよろこび

村田 佳寿子

みなさん、こんにちは。ご紹介をいただきました村田佳寿子です。昨年の秋、日本聖書協会が発行しているニュースに私のことが紹介されました。それに目を留めてくださったのがきっかけで、この大学でお話をしてくださいと、依頼を受けました。その時からここへ来ることを楽しみにしていました。楽しみにしていましたが、この日が近づいてくるとだんだん緊張して、昨夜などはよく眠れませんでした。

今日ここへ来てみますと、こんなにいっぱい学生さんで「私ってこんなに人気があるのかしら」と思ったら、みなさんレポートを出さなくてはいけないそうですね。ですからしょうがなく、ここに座っている人もいらっしやるでしょうが、そんな人にこそ私の話をきいていただきたいと思っています。

アナウンサーになるきっかけ

私はフリーのアナウンサーです。今はテレビ朝日の番組「朝のモーニングショー」で、

どちらかという硬派なニュースのレポーターをしています。それから「ニュースフロンティア」でもナレーションをしています。ラジオでは文化放送でナレーションをしています。思い起こせば、この文化放送という局で私はアナウンサーとしての第一歩を始めたのです。

いまから十年ほど前です。大学を出てすぐアナウンサーになったのですが、あっ計算しないでくださいね、まあみなさんよりは少し年上です。

十年間アナウンサーをしてきましたが、今はアナウンサー以外の仕事もしています。たとえば社員教育のトレーナーとして、社会人としての話し方などをトレーニングしています。

また「環境ジャーナリストの会」で活動しています。地球環境をテーマにして、ジャーナリズムの面から、その中でも私は特に環境教育を専門に取り組んでいます。

また、環境と人間の間を通訳する「環境インタープリター」という制度ができて、先日私はその第1号の証書をいただきました。環境教育学会の正会員でもあります。私はほんとうにいろいろなことを「欲ばって」しています。

私がいましていることは全部、私がしたくてしていることばかりです。私がしたいと思

ったことはみんなかなえてきました。

そしてそれらはみな文化放送のアナウンサーになったことから始まったのですが、なぜわたしがアナウンサーになろうと決心するようになったか、それは私にとって今思い出すだけでもつらいことですが、それをお話しないとわかってもらえませんので、はじめにそのいきさつをお話しましょう。

目がすこし痛いだけなのに

17才、高校3年の時のことです。大学受験をひかえて、受験勉強をしていた、ちょうど今頃の季節でした。しばらく前からずっと目の痛みが続いていました。ひどく痛みましたが、その時は期末試験の勉強が原因で目が疲れているだけだと思っていました。期末試験も終わり、忘れもしません6月26日でした。あまりの痛さに「やっぱりおかしい」と思って、大学病院に行ったのです。後で説明しますが、この「やっぱり」というのが曲者(くせもの)なのです。

検査をしたお医者さんが「角膜がズタズタです。ほっておいたら失明します。すぐ入院してください。一刻も早い手術が必要です」とおっしゃいました。

「角膜がズタズタ?」「失明?」。お医者さんのいっていることが、自分の目のことだ

とは一瞬わかりませんでした。

私の目は少し痛いだけです。この痛みさえ取れば、それ以上のことは何も要求してはいないのです。目が見えなくなるようなことは何もしていません。

今まで何か悪いことをしたわけでも、目に何か刺さったわけでも、交通事故にあったわけでもありません。なんにもしていないのにどうして目が見えなくなるのか。納得がいきませんでした。

#### 眼瞼内反症

私の病気は「眼瞼内反症（がんけんないはんしょう）」という病気でした。それはまぶたが目の内側に反ってくるというものです。まぶたが内側に反ってきますと、まつげが目の表面にさわります。そしてまつげが角膜を傷つけていたのです。角膜が炎症を起こして角膜炎、もちろん結膜も炎症をおこしていました。そして一刻も早い手術が必要だということです。

「手術をしなければどうなるんですか」と聞きました。「失明です。まったく見えなくなります」と答えが返ってきました。「手術しないで済む方法はないのですか」「ありません」。私は文字どうり目の前が真っ暗になりました。

目が見えなくなるって？

失明、そんなことが自分の身の上にかかるなんて思ってもいませんでした。目が見えなくなるって、どんな状態なんでしょう。

きのうまで普通に学校に通っていて、いきなり「あなたは今日から目がみえなくなります」といわれたら、あなたはどうしますか。

みなさん今このままで目をつむってみてください。じーっとそのままにしてください。当然ですけど真っ暗でしょう。何も見えませんね。……もしずっとこのままだとしたら……。今30秒たちました。もう30秒、と思えますか。まだ30秒しかたたないのか、と思えますか……。あとどのくらいこのままいなくてはならないのかしら、と思うでしょうか……。どうせ間もなく目を開ければまた元通りだと思えますか……。今1分たちました。ハイ目を開けてください。1分間真っ暗な中にいて、そのあと明るい世界にもどってみて、感想はいかがですか。

私は17才でいきなりそんな世界にほおりこまれたのです。そして一生そのままかもしれない、という状態に陥ったのです。

いまのみなさんは落ち着いてしっかりしていておとなっぽいです。私は17才にしてはたいへん子どもっぽいです。毎

日、学校も楽しかったし、幸せでした。こう見えても、成績も良かったのです。ですから大学受験のこともあまり心配していませんでした。

世の中に戦争や悲しい出来事がいっぱいあるのに、私はなんて幸せなんだらう。かわいそうな人があるのは私が世の中の幸せを独り占めしているからかしら、と思ったくらいです。そんな極楽トンボの幸せ者でしたから「失明します」といわれても、私はただビックリ、茫然としているだけでした。

#### 放っておいたために

眼瞼内反症という病気についてもう少し説明しましょう。顔を横から見ると眼のところが窪んでいますね。それを眼窩（がんか）といいます。この眼の窪みと眼球の間にクッションになる脂肪の組織があって、ここが増殖する病気です。これは誰でもかかる可能性があって、手当てさえ早ければ比較的軽いものだそうです。

しかし私の症状は重く、お医者さんの説明は卒倒しそうなものでした。今思いだすだけでも、涙がでてきます。手術はこの脂肪の組織をまぶたのところから取り出して、切るというものです。

みなさんも注意してほしいと思いますが、

角膜に傷がついても、それが表面だけであればすぐになおります。しかしそれを放っておきますと、どんどん炎症がすすんで、角膜が潰瘍（かいよう）をおこします。

そうなると大変です。手遅れです。私の角膜もそうになっていたのです。どうしてこんな状態になったのか、よりもよって自分がどうして失明しなければならないのか。考えてもわかりません。

でも思い当たるフシがありました。事実、眼が痛いのはきのう、きょうに始まったわけではありませんでした。その前の年の秋頃から、眼にゴミが入ったようにゴロゴロするなどは思っていました。それがずっと続いたので、その年の暮れにお医者さんに行って診ていただきましたが、その時は何でもないと言われました。

#### 「何でもない」と信じて

「その時の」と言いましたのは、実はその医者は5つ目に行った所で、それまでに4つ医者を代わっていました。それまでのどの医者からも「まつげの生え方が悪いから手術をしなければいけません」と言われていたのですが、私は手術がいやで逃げていたのです。

ですから5つ目に行ったところで「何でもありません」と言われたので、それを信じる

ことにして「何でもない」と自分に言い聞かせていました。言い聞かせながら、それから実に半年も放っておいたのです。

「よくもまあ、そんな状態で放っておいたわね。信じられない。私ならすぐ病院に行くわ」。みなさんはきっとそう思うでしょう。いまなら私もそう思います。

でも、私の立場になって考えてみてください。目がゴロゴロする、ちょっと痛いというぐらいで、手術しなければ失明するといわれても信じられますか。勉強で眼に無理がかかって、すごく痛くなり、先ほどの「やっぱりおかしい」ということで大学病院に行ったのです。

私の母は私が7才の時、病気で亡くなりました。その大学病院は母が亡くなった病院だったのです。それを思いだすのがイヤでその病院は避けていたのです。そして私の眼は手遅れになってしまったのです。

病状が緊急ですから、すぐに入院の日も手術の日も決まり、手術の同意書にサインをしました。私が「手術をすれば私の眼は元通りになりますね」と聞きますと、お医者さんは私の質問にはお答えにならないで「お父さんかお母さんをお呼びしてください」と言われました。私にはその時「このままずっと見えないままではないのかしら」という予感がしました。

その時、私の眼はいつもレースのカーテンがかかっているような、車のフロントガラスに油膜がついているような、全体が白く濁って見えるような状態でした。この手術直前の状態では視力は0.01でした。これは厚生省で視力ありと認められた最低の視力です。この下は盲目ということになります。

### 心の中に見た夕焼け

手術をしてからずっと個室にいました。まっ暗な状態で、手術後の痛みを耐えながら一人でじっとしているのです。痛みが少し引いた頃、気を紛らわせるためにラジオを聞きました。私が元気だった頃から好きだった文化放送の「夕焼けワイド」という番組をよく聞きました。これは町のあちこちに中継車を出して、夕焼けの町の様子を放送している番組でした。

あの夕焼けがもう一度見えるようになるのだろうか。また見えるようになるという希望と、もう二度と見えないかもしれないという不安とが交錯するなかでは、今まで聞いていた番組とまったく違って聞こえました。

不思議なことに、ラジオのアナウンサーの語ってくれるとてもきれいな夕焼けが、私にもあざやかに見ることができたのです。その夕焼けはとても明るく、希望にあふれた美し

いものでした。

人の心に語りかけ、美しい夕焼けを思い出させてくれる「言葉の力」というものを、はじめて知らされたのです。

夕焼けになると、あしたは晴れだといいますが。夕焼けは、あしたは必ず晴れると教えてくれる「希望のしるし」なんですね。私が見た心の中の夕焼けは、私の人生の希望を指し示しているようでした。

もし、まったく眼が見えなくなったら、ということもずっと考えていました。来年に控えた大学受験をどうしよう、そしてその先の就職、結婚のことなどを考えました。

私はずっと教会に通っていて、身体障害者の人とも一緒でしたから、眼が見えなくなったらとって、大学に入ることも結婚することもできないなどとは思いませんでした。

でも今までと同じようには考えられない。たとえば、大学を受験するにしても、まず点字から覚えなくてはなりません。来年の受験はムリだろうな……。眼が見えなくなったら仕事はどうしようかな……。80才まで生きるとして、この先の人生をどう生きていったらいいんだろう……。

私は、ほんとうに子どもっぽかった17才から、急に自分の人生についていろんなことを考えなければならぬ状態に置かれてしまったのです。

## アナウンサーになろう

個室でひとりぼっちだったのがよかったのかもしれないと思います。同室の人とおしゃべりをしていたら、気を紛らわすことができたかもしれませんが、自分自身と直面して考えられなかったかもしれない。かえって一人だったので、自分の置かれた状態、これからのことをじっくり考えることができたのだと思います。

みなさんも一度試してみてください。ものを考えるのに、目を開けてまわりがよく見える状態で考えるのと、目をつむって何も見えない状態で考えるのとでは、出てくる考えが全く違います。

その時、ひとりっきりのまっ暗な病室で私は「このまま眼が見えなくなったら、アナウンサーになろう」と考えたのです。アナウンサーはその時の私のように眼の见えない人に役立ち、喜ばせ、希望を持たせる仕事だからです。

## 神様のなさること

そのヒントになるようなことをアドバイスしてくださった人がいました。当時私が通っていた教会の先輩がお見舞いに来てくれて

言ってくれたんです。

「これは、よく身体障害者になった人に言うことだけれど、あなたにも言いたい。失ったものを数えるな、残っているものを数えなさい、と。

あなたがもし、このまま眼が見えなくなったとしても、あなたの五感の一つがなくなるだけです。まだあと四つも残っているじゃないですか。一つしか失っていない。

どうしてあなたがそうなるのか。それは神様があなたにとって、その方がいいからなさることです。神様はほんとうに私たちを愛してくださっているのですから、絶対に悪いようにはなさいません。それはまちがいないことです。聖書にそう書いてあります」と言っておハネによる福音書の「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された」という言葉を読んでもうございました。

「この『世』というところに『佳寿子』といれて読んでごらんください。神はその独り子をお与えになったほどに、佳寿子を愛しておられる。あなたを愛しておられることから、こうなったんだよ」。

私は自分に残っているものを数えて見ました。もし眼が見えなくなったとしても、まだ私には触覚がある。嗅覚もある。ああ、そうだ、口もきける。

私のこの口を使って、あのラジオ番組「夕

焼けワイド」のような仕事ができないだろうか。「もし、眼が見えなくなったとしたら、アナウンサーになろう」。

私がこのとき「もし、見えなくなったとしたら」と考えたことが、後々の私の「強み」となりました。

ふつうは「眼が見えるようになったら」と考えるはずですが。私も友達と「眼が直ったら海へいこうね」と約束していましたが、映画も見たい、そしてなにより夕日を見たいと思っていました。

そういうことも考えましたが、私は「もし見えなくなったとしたら」と考えたのです。「もし、眼が見えなくなったら、アナウンサーになろう」。

見える！ 見えない！

いよいよ包帯をとる日がきました。私はとても緊張してお医者さんの前に座りました。そして包帯をとられた瞬間、眼の前がぱっと明るくなりました。「あっ、見える！」。

もしかしたらまっ暗なままかもしれないという恐怖がありましたから、その明るさに感動しました。まず眼に入ったのは「白」でした。お医者さんや看護婦さんの白衣、それから眼の前にまっ白な「スクリーン」がありました。



お医者さんに「視力検査をしましょう」と言われました。「じゃあこれを読んで」というのです。「エッ」。私にはなんのことかわかりません。「はい、上から読んで」。棒か何かでパシッとたたくような音が聞こえるのです。

その瞬間私は気がつきました。私の前にある真っ白なスクリーンと思っていたのは視力表だったのです。

普通の人なら、近視とか乱視が相当ひどくても何か書いてあるとか、何か黒いものが見えるでしょう。でも私が見たのはとにかく真っ白だったのです。

私はもう気が動転してしまいました。「もし、見えなくなったとしたら」と頭で考えていても、やはり見えるようになるという希望ももっていましたから、見えないという現実にはぶっつかって、どん底につきおとされてしまったのです。

私は「先生、何も見えません！」と叫びました。お医者さんはまるでこの私の言葉が前もってわかっていたように、何でもないようにカルテに向かって何か書いていました。私はスがるような気持ちで「先生、見えるようになりますよね」というと「そうねえ、今は手術が終わったばかりだし……」とはっきりしない返事でした。

まわりを見ると、すぐそばにいる看護婦さ

んはわかるのですが、目や鼻や口はわかりません。机も窓もぼやとしていて、輪郭はわかりません。

#### 見方が変わる

包帯をとった時は「見える」と思い、しばらくして「見えない」ということがわかったのですが、その間に視力が変わったと思えますか？ 変わっていません。それどころか、大学病院に来て「ほとんど失明状態ですよ」という診断をいただいた時とも視力そのものは変わっていないのです。

視力は変わっていないのに、見え方は違っているのです。これは私にとってすごく大きな体験でした。つまり同じ物事でも受けとめ方によって全然違ったことになるのです。

とにかく光は感じられますが、何もかもぼんやりして、人の顔も目鼻のない、鏡に写った自分の顔も目鼻がよくわからない。そんな状態で、この眼で私はこれから先の人生を生きていかななくてはならないのかと絶望に近い気持ちでした。

8月の終わりに病院の外に出ました。外に出たとたん、夏の光とともに、木々の緑がキラキラ輝いているのがぱっと目に飛び込んできました。そしてその向こうに青い空が見えました。その瞬間のことを私は生涯忘れるこ

とができないでしょう。

私は一生をまっ暗闇の世界で暮らさなければならなかったかもしれないのです。それに比べたら、光が見える、色が判る、ぼんやりでも形がわかる、それはどんなに素晴らしいことでしょう。きらきら輝く緑の木々、私には風さえも見えるような気がしました。

何でもできる！

後になってコンタクトレンズを入れましたが、やはり思ったより視力は出ません。0.3と0.2です。

コンタクトレンズ屋さんは「0.3までしか矯正できないのなら、作っても仕方がないですね」と言いました。普通1.2の視力の人があるのなら、日常生活に支障をきたし、絶対に眼鏡が必要だそうです。でも0.01だった私には、それだけあれば十分でした。

今もコンタクトレンズを使っていますが、すっかり慣れて、今では自分が眼が悪いことも忘れてしまうくらいです。それどころか、コンタクトレンズをとって、0.01のままでも生活できるのです。普通は0.01の視力では食事をするのも、道を歩くこともできないそうです。慣れるということもありましたが、やはりたいへんな努力も必要でした。

でも私にはアナウンサーになるという希望

がありました。その希望があったから努力できたのだと思います。

アナウンサーになって

次の年、大学を受験しましたがことごとく失敗してしまいました。皆さんは、どういう目的でこの大学に入られたのでしょうか。

私にとって大学に行くということは、「人間の証明」みたいなものでした。私が人間であるということの証し、それが大学へいくことでした。

短大に入学して、そこから学部に編入することにしました。けれども短大にいた二年間は、コンタクトレンズが入れられず、0.01の視力のまま生活し、勉強しなくてはなりません。眼鏡をかけていましたが、眼鏡ではそれほどの視力はできません。教室では一番前の席に座り、食い入るように黒板を見るのですがよく見えません。休み時間はいつも友人のノートを見せてもらいました。

短大を卒業するだけなら50単位でいいのですが、学部に編入するには100単位必要なのです。それにそれらがほとんど「優」でなければなりません。普通四年の卒業単位は卒業論文をいれて108単位ですから、その二年間は自分でも驚くくらいほんとうによく勉強しました。

そして短大の卒業の時は成績優秀を認められて、代表で卒業証書をいただくことになりました。「卒業生代表、村田佳寿子」と呼ばれて、段上に上った時も足下はよく見えませんでした。

そして大学にも編入できました。短大では英語が専門でしたが、大学では心理学を勉強しました。これらが両方、現在やっていることに非常に役に立っています。

もし私が眼が悪くならなかったら、そして大学受験も失敗せずに合格していたら、アナウンサーになりたいとも思わなかったかもしれませんし、あんなに勉強した短大の二年間もなかったでしょう。

卒業してよいよアナウンサーの試験を受けました。いくつか受けましたが、いつも最後の健康診断のところでひっかかるのです。

ところが文化放送は健康診断がありませんでした。社員としてではなく、アナウンサーとしての専属契約でしたから、健康診断がなかったのです。ですから眼が悪いということがわからないで合格したのです。私にとってとてもラッキーでした。

そして「文化放送ライオンズナイター」という番組を担当しました。この番組はプロ野球の西武ライオンズを100%応援するというもので、私がアナウンスを担当しました。女性が野球の放送に出るのは、日本で初めての

ことだったそうです。

あこがれの番組「夕焼けワイド」にも出ました。そして私がかって病室のまっ暗な世界にしながら、あざやかな夕焼けをみせてくれたアナウンサーにも会うことができました。

「これからは君がその幸せをみんなにわけてあげるんだよ」と励まされ、これからは私がいつかの自分のような人に、夕焼けを、希望をみせてあげたいと思いました。

#### 神さまとの約束

私は入院中いつも神様に「どうぞ眼が見えるようにしてください」と祈っていました。聖書に眼の见えない人がイエス・キリストに「どうぞ見えるようにしてください」と願うと、キリストはそれを癒して「あなたの信仰があなたを救った」と言っておられます。

キリストはご自分が見えるようにしてあげたとは言わないで、あなたが信じたから見えるようになったと言うのです。その言葉が入院中の私のささえでした。

そして私は祈り続けました。「もし見えるようになって、見えないままでも、私は一生、人を喜ばせる仕事、特に目の見えない人のための仕事をしていきます。みこころならば目が見えるようにしてください」と。

放送局のスタジオではじめてマイクの前に

立ったとき、私はこう祈ったことを思いだしていました。

去年、聖書をCDに録音するという仕事が日本聖書協会から来ました。信仰をもっている、もっていない、アナウンサーにとって聖書を読むということは、一度はやってみたい仕事です。聖書は世界のベストセラーです。しかしこれはほんとうに難しいことなのです。なぜなら広く読まれれば読まれるほど、人それぞれ違った受けとめ方をしますから、それを誰が聴いても、ぴったりとするという読み方は非常に難しく、高い技術力が必要なのです。

この録音のためにプロの人を対象にオーディションがあり、私はその結果、最終の四人に選ばれました。そして私も新約聖書のマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四つの福音書の一つを朗読しています。この大学にも近いうちにそのCDが入るそうですから、ぜひ聴いてください。

この聖書の録音という仕事が決まった時、私は十五年たって神様との約束を果たすことができましたと思いました。

#### まっ暗闇のなかで

福沢諭吉が「人間にとってもっとも幸せなことは、生涯を貫く仕事を持つことです」と

いう言葉を残しています。私は「生涯を貫く仕事を持つ」という幸せを、あのまっ暗闇のなかで得たのです。

もし17才のときに失明するかもしれないというような不安な状態に置かれなかったら、また、まっ暗闇のなかで痛みと闘いながら過ごすというつらい状態に置かれなかったら、私は自分の生涯の仕事をもつという幸せを得ることができなかつたかもしれません。

そう考えると、人生って不思議なものだなあ、神様のなさることは不思議だなあと、思います。

イエスさまは「今、泣いている人たちは、幸いである」とおっしゃっています。私も小さい時から教会に行っていますが、この言葉を聞かされたときに、そんなバカなと思っていました。

悲しいこと、つらいこと、不幸なことがあるから、人は泣くのです。泣いている人がしあわせだなんて、とてもじゃないけれど信じられませんでした。けれども、私自身がイエスさまの言っていることは本当だと、身をもって体験させられたのです。

アナウンサーになってから、とても苦しい思いをしました。仲間は三年、五年とたつ間にみんなやめていきました。フリーアナウンサーというのは月給があるわけではありません。仕事をしていくら、です。最初は経済的

にもほんとうにたいへんでした。今はずいぶんたくさんのお金をいただきますが、それは十年いつも自分をみがき、努力してきたからです。

その努力がどうしてできたかという、私はあの17才の時、眼が見えなくなったかもしれない、そのことを考えるとどんなことだったか耐えることができたのです。

### これが私の人生

まったく眼が見えない状態で、アナウンサーになっていたとしたら、今いくら苦しいといっても、とてもこんなものでは済まないからです。それを思えば、何だってできる。

ラジオからテレビに移ったときも大変でした。そんなとき、私は木を見るんです。葉っぱの一枚一枚は見えませんが、あざやかな緑は見える。空の色も見える。ああ、私は何だってできる、そう思うのです。

木や空や雲を見て、生きるよろこびを沸き立たせられるのは、アナウンサー多しといえども、私ぐらいかもしれません。

去年の秋、名古屋学院大学から講演を頼まれて以来、今日までずっとどんな話をしようかと毎日考えてきました。御蔭で眼が悪くなってからの十五年間をふりかえることができました。もう、私は自分の人生の半分以上

を、この眼で過ごしてきたのです。

眼が悪くなってからの十五年を考えると、最初はもう少しよく見えるようになれば、と思ったものでしたが、今考えるともうこれでじゅうぶんだと思っています。

### 病気になってよかった！

「得したなあ、この病気になってほんとによかった」。今は心からそう思います。失ったものよりも、得たものの方がずーっと多いからです。

「眼が見えるようになったら」と考えないで、「もし、眼が見えなくなったら」というところから出発したからです。わたしにとってこれだけ見える眼があれば、これからどんなことがあっても耐えられる、という気がします。

私はいま、ほんとうに幸せなんです。よい眼を失ったことによって私の得たものは計りしれないものでした。こんな心境になれるとは私自身思いませんでした。

今「あなたは幸せですか？」と聞かれれば即座に私は「ハイ幸せです」と答えることができます。そしてその幸せは、私が眼を悪くする前に考えていた幸せとは、全然違う種類の幸せです。いろんな種類の幸せが、人それぞれにあるんだということを知りました。

不幸な状態におちこんだときも、それが実は幸せになるチャンスなのだとすることを私は知りました。みなさんにもそれを知ってほしいのです。

もし皆さんが仮に、とても耐えられない、死んだ方がましだと思ふような状態に陥っても、それはもっと大きな幸せへの第一歩だ、チャンスなのだ、このマイナス（-）に一本付け足せばプラス（+）になる、ということをご覚悟しておいて下さい。

いまみなさんは幸せな学生生活を送っていらっしゃると思います。しかし、もっと幸せになりたいと思いませんか。それは可能なのです。もっともっと幸せになりたいと思ったら見方を変えてみて下さい。

ちょっと見方を変えてみてください。マイナスはちょっと見方を変えるだけでプラスになるのです。「視力を変える」必要はありません。「見方を変える」だけでいいのです。肉体の眼ではなくて、心の眼のことです。

神はあなたがたの中に

きのう私はこの大学のキャンパスを、案内されて歩いてみました。こんな豊かな自然に

囲まれた大学は他にありません。

皆さんはあの遊歩道を歩いたことがありますか。毎日通い慣れているので、何を見ても感動しないかもしれません。しかし「この景色はもう二度と見ることはできない」と思っ一つ一つをじっくり見て下さい。雑草の一本、石ころの一つにも感動するはずですよ。

やがて皆さんもこの山を降りて、都会の生活に入って行くでしょう。四年間しかない大学生活の中でおもいきり楽しんで下さい。これからの人生をどう過ごしたいか、しっかり考えて下さい。

最後にみなさんもう一度目を閉じてみてください。……そして耳をすましてください。……さあ何が聞こえますか、何が感じられますか。目をあけなくても、心で感じるものが何かあるはずですよ。人の話し声、風の音、隣人の体温……。静かに心の眼を開いてよく見て下さい。そうすればほんとうに色々なものが見えてくるはずですよ。

隣に座っている人の手を握ってみてください。ちょっと恥ずかしいかもしれませんが、体温の暖かさを感じて下さい。

皆さんは、神様ってどんな方だろうって考えたことがありますか。見ようと思っても全然見ることもできないし、触れることもできない。神様の手のぬくもりを知りたいと思ったら、いまあなたが触れているその隣の人の

暖かさがそれです。

聖書にちゃんと書いてあります。「神の国はあなたがたのただ中にある」と。神様は人と人との間にいらっしゃるのです。私たちはおたがいに対して、神様の働きをすることができるのです。

一億一千二百万人も人間がいるなかで、どういうわけか同じ時代に生き、同じ大学で学んでいる友達です。いつも楽しく笑っているように見える友達の表情を、心の眼で見たことがありますか。さあ、眼を開けてください。

皆さんが、いろいろなものをもっと心の眼で見たいと思ったら、せっかくこの大学で学んでいるのですから、一度は聖書を読んでみてください。どこからでもかまいません。パラパラと開いたところを読んでみてください。いろいろな気づきがあるはずです。

人間が生きていくうえで、大切なのはこの「こころの眼」が開かれるかどうか、ということではないでしょうか。

## 1992 春の宗教講演会ご案内

# 生きるよろこび

——自分でつくり出す喜びと、与えられる喜びと——

とき **5月25日**(月) 午前11時半～12時半

ところ **名古屋学院大学 チャペル**

講師 **フリーアナウンサー**

**村田佳寿子さん**



「神様は決して悪いようにはなさない。たとえ目が見えなくなっても、それはあなたにとって一番良いことなのだから」。これは村田さんが失明の不安と向きあっていた高校3年のとき彼女を支えてくれた友人の言葉です。

病室のベッドで聴くラジオ。目で見ることのできない夕焼けを、心の中に描かせるアナウンサーの仕事の魅力を発見。「真っ暗闇の中で私は一生の仕事を見つけました」と村田さん。

幸い手術は成功し、短大で英語を、専修大学で心理学を、さらに東京アナウンスアカデミー・NHKアクトアーズゼミ本科・声優科を経て、念願の放送界へ。文化放送専属アナウンサーとなり、「ふるさとはどこですか」でギャラクシー賞選奨を受賞。現在はテレビ朝日「モーニングショー」のリポーター、環境ジャーナリストの会会員、聖書のCD朗読など多方面に活躍中です。

主催 **名古屋学院大学 宗教部**

TEL. 0561-42-0348

チャペル ブックレット 発刊にあたって

本学の開学(1964年)以来、宗教部では毎年、春と秋に「宗教週間」を設けて、折りにかなったテーマと講師を与えられて、学生諸君と共に学んでまいりました。

その講演内容は、宗教部の機関紙「麦粒」に掲載してまいりましたが、貴重な講演を、いつでも手にとって読める形にまとめてはどうかとの提案を受けて「チャペル ブックレット」として発刊することにいたしました。

このチャペルブックレットが、本学の学生諸君をはじめ、多くの方々に刺激を与え、問題を提起し、より深い認識と行動へかりたてるきっかけになることを願っています。

1989年11月

宗教部長 梶原 寿

チャペルブックレット No. 6

1992年10月1日発行

編集・発行 名古屋学院大学 宗教部  
〒480-12  
瀬戸市上品野町1350  
TEL 0561-42-0348

印刷 泰光株式会社



●既刊

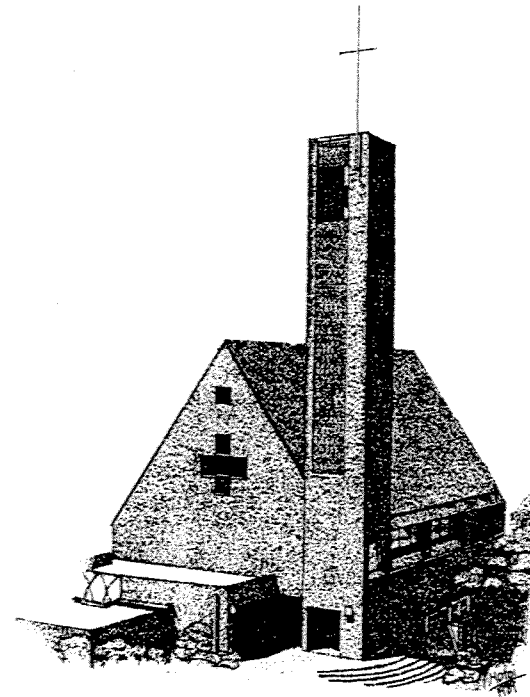
- No.1 経済の論理と人間の論理  
エコノミック アニマル日本  
恵泉女学園大学教授 塩沢 美代子
- No.2 心を問い続けて  
北海道家庭学校校長 谷 昌 恒
- No.3 国際化時代におけるキリスト教の使命  
韓国の視点から  
梨花女子大学教授 徐 洸 善
- No.4 激動する現代史と神のみことば  
東京女子大学教授 池 明 観
- No.5 生きることの感動  
豊島岡教会牧師 金 禮
- No.6 生きるよろこび  
フリーアナウンサー 村田 佳寿子



Culture & Human Resources  
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY  
名古屋学院大学

—— 1992 春の宗教講演記録 ——

生きるよろこび



フリーアナウンサー  
村田佳寿子

名古屋学院大学 宗教部